

設立趣旨書(案)

1 趣旨

養父市は兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、2004年（平成16年）4月に平成の大合併で旧4町（八鹿町・養父町・大屋町・関宮町）により現在の養父市が誕生し、20年が経過しようとしています。

その間、物質的な豊かさを求め、企業誘致や企業支援による雇用創出など経済の活性化、移住・定住施策を強化し人口減少対策などに取り組んできました。しかしながら、地方では人口減少、高齢化は進展し続け、医療介護福祉分野を含めた支え手の確保も困難な状況となりつつあり、今後ますます深刻化していくと考えられます。

現代社会は、取り巻く社会環境が多様性、複雑性が増し、将来予測が困難なVUCAの時代ともいわれています。ロシアによるウクライナ侵攻、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的感染症の流行）などの情勢不安や、気候変動、自然災害、生活困窮などさまざまな問題に直面しています。こうした想定外のことが起こり、その解決に明確な方向性を見いだせない社会、また、不安定、不確実、曖昧、不透明なVUCAの時代にあって、全ての人が生きづらさや孤立、孤独、悩みを感じやすい社会への対応が課題になっています。また、「人々が健康でどのように活力を持って生きるか」は国家的な課題ともなっています。

養父市では、孤立せず、安心、安全で居心地のよい「快適」な生活が送れる「包摂社会」の実現を目指し、2050年の養父市を見据えた「養父市まちづくり計画」を令和3年度に策定し、基本構想では「居空間」ました。

また、令和4年度からは生活環境や家族形態、地域社会の変化で「つながり」が希薄化し、人々が孤立や生きづらさを感じる状況の中で、「社会のつながり」を処方し、個々が抱える問題を解決する「社会的処方」という概念をまちづくりに取り入れ、包摂社会の実現を目指す取組を始めています。健康面と社会生活面の課題を抱える方々へのアプローチです。

「社会的共通資本」の概念を導入し、「本当の豊かさ」とは何か、経済における倫理面と人間の心の回復を重視し、人々が安心して暮らすための経済学を追求した経済学者：故宇沢弘文氏経済理論の中で、豊かな自然に囲まれ、社会的インフラが整い、教育や医療などが充実している社会では、それぞれが安定的に幸福を追求することができる。としており、社会的共通資本としての医療・福祉・介護、社会包摂を促進する文化・芸術は協調連携することが必要であり、人と人、人と地域がつながり、属性・世代を超えて誰もが支えあい、いきいきと暮らせる地域共生社会を創造するために、医療、文化芸術、経済（教育を含め）分野が融合は不可欠であり、胎児から老齢期までの時間軸の概念が含まれ、その時々々の生活環境が後々の健康に影響する「健康加齢」を考え、そして最終的には個々の幸福（ウェルビーイング）つなげる調査研究が必要です。「つながりで誰もが健康になるまち」「居心地がよいまち」を目指す市の取組を学術的（アカデミック）な立場から後押しする研究所となることを期待します。

今回、法人の設立に至ったのは、医療、文化・芸術、経済の分野に精通する志のある学識者の方々の参画を得て、この事業を地域の実情を踏まえ、継続的かつ安定的に推進していくことと、安全性・信頼性等の観点から、社会的に認められた組織として、市行政とは独立した社会的に認められた組織にしていくことが望ましいと考えたからです。また、本事業が営利を目的としないことから、将来的には公益認定申請を前提として一般財団法人を設立するのが最適であると考えました。

ました。

この法人のひとつの大きな目的に、「健康加齢を増進し」とありますが、健康な加齢とは、胎児期から老齢期までの時間軸の概念が含まれています。その時々々の生活環境が後々の健康に影響するという事です。

健康に関して、WHOは「健康とは身体的、精神的、社会的にすべてが完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と「状態」が定義されていますが、「ポジティブヘルス」という新しい健康の概念が注目されています。オランダのポジティブヘルスの概念によると、「社会的、身体的、感情的な問題に直面した時に適応し、本人主導で管理する能力としての健康」として「能力」をコンセプトとされ、人の持つ「エネルギー」が重要視されます。病気や障害があるからといって、不健康なわけではないということです。

そのことを踏まえて、人と人、人と社会がつながりながら、それぞれ役割があることで、個々の人生満足度、幸福度が向上する社会になっていくんだらうと考えています。

「社会的共通資本」の概念を導入し、「本当の豊かさ」とは何か、経済における倫理面と人間の心の回復を重視し、人々が安心して暮らすための経済学を追求した経済学者：故宇沢弘文氏によると、「社会的共通資本」とは豊かな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置のことであり、これは、大気、海洋、森林、河川、水、土壌など「事前環境」、道路、交通機関、上下水道、電力・ガスなどの「社会的インフラストラクチャー」、教育、医療、司法、金融、文化などの「制度資本」、海や森などの「自然資本」、道路や水路などの「設備資本」、教育・医療・福祉などの「制度資本」という3つのカテゴリーに分けられ、豊かな自然に囲まれ、社会的インフラが整い、教育や医療などが充実している社会では、それぞれが安定的に幸福を追求することができる。その土台となる社会的共通資本の領域では、市場の競争原理を優先するのではなく、また過度の官僚支配を行なうべきものでもない。それぞれの分野の職業的専門家が、専門的な知見に基づいて管理・運営することが重要となる。

2 経過

令和4年

5月～10月 コアメンバー等による勉強会を開催（5回）

令和5年

3月～7月 （仮称）養父医学研究所設立準備検討委員会を設置・協議
報告書の答申（研究所設置の意義、目的、法人のなど）

9月 養父市議会9月定例会に出捐金、補助金を補正予算提案、可決

12月 設立総会開催

令和5年12月23日

一般財団法人医療文化経済グローバル研究所

設立者 養父市

養父市長 広瀬 栄